



## エリンと挑戦!にほんごテスト 使い方のヒント 1

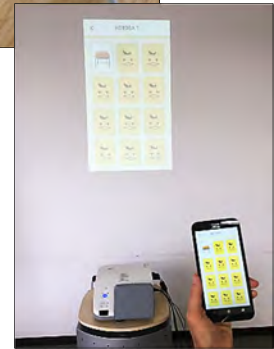
このアプリは、自分のスマートフォンで個人利用するのが一般的だと思いますが、工夫次第で、1台のスマートフォンを使って、何人かでいっしょに日本語を学ぶこともできます。今回は、スマートフォンをプロジェクターにつなげて、クラス全員でアプリを使うヒントを紹介します。

### 1 準備 スマートフォンをプロジェクターとつなげてみよう

専用のコネクターとケーブルを使って、スマートフォン画面をプロジェクターに映すことができます。

また、無線の技術を使ってつなぐ方法もあります。

- \*「スマホ プロジェクター 接続」で検索してみてください。
- \* プロジェクターが対応していれば HDMI での接続が、おすすめです。音もプロジェクターから出ます。



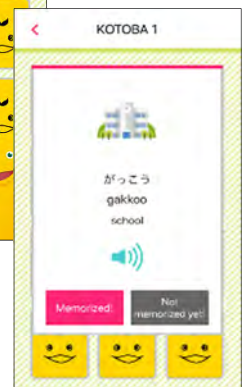
### 2 使い方のヒント KOTOBA1 を使った教室活動

#### KOTOBA1とは?

トランプのゲーム「神経衰弱 (Memory/Concentration)」のように、12枚のカードから2枚の同じ絵を選ぶゲームです。絵が揃うと、その絵のことばと音声を確認できます。これを繰り返して、日本語の身近なことばを見えることができます。



おし 教えている国で神経衰弱ゲームをよくやりますか。



KOTOBA1をプロジェクターで映してクラス全体でやってみましょう。

- ① どのカードとカードがペアになるか言ってもらう
- ② 出てくることばを見たり、聞いたりして意味を確認する

①では、自分たちの言葉を使って「上」「右」「真ん中」といったさまざまな声が上がるとおもうと思います。

ここで質問です。このように位置に関する声が上がったときに、日本語で場所を言ってもらおうとしたら、どうしたらいいでしょうか。





「上、真ん中、下」という日本語を教えて、言ってもらえるのはどうですか？

そうですね。位置を伝えることばの確認になって、いいと思います。  
ただ、カードは4×3の並びですから、3つのことばだけだと足りないかもしれません。

「上から2番目の左」といった位置を伝える表現を教えて、言ってもらえるのはどうでしょう。

それもいいですね。より詳しく伝えることができますし、4×3の並びでも伝わります。でもゲームで言うときは、少し長いかもしれませんし、学習者によってはレベルが高いかもしれません。



ホワイトボードに、画面と同じ12個の四角と数字を書いて、該当する数字を日本語で言ってもらいたいかなと思います。

なるほど。数字だと短く、レベルが高くない学習者にも、いい勉強になりますね。ただ、ホワイトボードの位置が、プロジェクターに近くないと右を向いたり、左を向いたり少し忙しくなりますので、注意しましょう。



画面と同じ12個の四角に数字を書いたプリントを学習者に配って、数字を日本語で言ってもらいたいと思います。

手元にプリントがあれば、すぐ見られるので、いいですね。  
数字だけでなく、文字をいれてもいいかもしれません。  
試しにカードを用意しましたので、使ってみてください。



位置を言うことに夢中になり、本来のゲームの目的(身近なことばを覚える)が薄れてしまわないように気をつけてください。

### 3 さいご最後に

今回はクラス全員に見せるやり方を紹介しましたが、グループに1台スマートフォンを用意できれば、もっと少ない人数でできます。クラスの状況に合わせて、試してみてください。

まずは一度やってみてください。感想もお待ちしています！